

オオクグ

Carex rugulosa

徳島県における指定状況： 絶滅危惧 I 類
環境省における指定状況： 準絶滅危惧

1 種の概略

(1) 特徴

海水と真水の接する塩沼地に生える多年草。根茎は地中を長く伸びる。葉は茎より長く伸び、幅 5～10mm でやや堅い。茎は高さ 40～70cm で鋭い 3 稜形、滑らかで、基部の鞘は濃い赤紫色の部分がある。

4～6 月ごろ、茎の上方に 3～5 個の雄小穂とその下部に 2～5 個の雌小穂をつける。雄小穂は細く、長さ 2～4 cm で互いに接近してつく。雌小穂は円柱形で斜上し、長さ 3～8cm、多数の濃褐色の花を密につける。雌花の鱗片は卵形、茶褐色で先は鋭く尖って先端は芒となり、背面は緑色の 3 脈がある。果胞は斜め上向きにつき、鱗片より長く、長さ 6～7 mm の長楕円形で、コルク質で細脈があり、褐色を帯びる。先端は次第に狭くなって短く、太い嘴状となり、口部は 2 裂し、その裂片の先は太く、基部は丸くなり、短い柄がある。柱頭は 3 岐する。シオクグに似ているが、本種は全体に大形で、葉は幅が広く、雌小穂が長く、かたまっていることなどで区別できる。



オオクグ（阿南市）

(2) 生育環境

海水の出入りする河口や入江の塩湿地、まれに沿海地の淡水湿地に生育する。

(3) 繁殖生態

根茎が地中を長く伸びて繁殖する。

種子によって繁殖する

(3) 分布

北海道、本州、九州（北部）。

① 現存しているところ

北海道、青森県、宮城県、山形県、福島県、千葉県、鳥取県、徳島県、長崎県、熊本県。

徳島県では1975(昭和50)年5月25日に初めて生育を確認した。

② 現状不明のところ

茨城県、新潟県、石川県、静岡県、愛知県、和歌山県、島根県。

2 生息・生育地の現状

四国では徳島県阿南市蒲生田岬が唯一の現存地で他県には生育の記録がない。地下茎が繋がっているため個体数は正確には数えられないが、穂をつけた花茎の数はやや多い。

3 絶滅の要因

アンペライ（ネビキグサ）、ヨシなどの抽水植物の繁茂により圧迫されている。また、池畔林のウバメガシ、アカメガシワ、マサキなどの樹木による被陰で生育環境が悪化し、絶滅の危険性が增大している。

4 保全対策

(1) 池の水質悪化の防止

生育地は大池の推移帯に生育しているため、池の水質が悪化すると絶滅の危険性が高まる恐れがある。水質が悪化しないような配慮が必要である。

(2) 生育環境の保全

現在はアンペライ（ネビキグサ）、ヨシなどが過剰に繁殖し、オオクグの生育環境が悪化しているため、過剰に繁茂し、本種の生育を阻害している植物を除去したり、被陰の原因となっている池畔の樹木を剪定するなど、速やかに生育環境の保全を図ることが望ましい。